

## 令和5年度 地域ケア・地域看護推進委員会 活動報告

<b>■委員名</b>	委員長：成定啓子 副委員長：丸山玲子 委員：森本敦子・菅原かおり・山田真紀・高橋里佳・金村晴美・池内雅子 福井あけみ・稲岡由美子・住田博美（令和5年8月まで）・大迫しのぶ 村田直子
<b>■開催回数</b>	6回
<b>■活動目標</b>	地域の実情に応じた地域包括ケアシステム推進における「看看連携」ネットワークを組織的に効果的に推進する。
<b>■活動内容</b>	<p>1. 看看連携・実践報告会開催                  日時：令和5年7月4日 14:00～16:00                  場所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用）                  対象：看護管理者・研修テーマに関心のあるすべての看護職                  内容：第1部 令和4年「コロナ禍における管理者のネットワークに関するアンケート調査」の結果報告                  第2部 看護でつなぎ創る地域包括ケア ～西播支部看看連携の取り組みより～                  講師：木村病院 看護部長 成定啓子 氏                  参加者：会場11名 オンライン39名                  アンケート結果概要：他施設の取り組みを聞き、自施設や地域における看看連携に関する課題や解決の糸口がみえた。また、グループワークで看護について語り合うことにより、他施設に勤務する看護職の思いを知り、看看連携により患者の療養生活を支えることが分かった。</p> <p>2. 各支部で取り組んでいる地域包括ケア推進に向けての取り組みを推進する。                  1) 各支部の看看連携の一覧表を再確認した。                  ・コロナ禍で停止していた会議もあった。追加・修正し委員会で共有する。                  2) 各支部、施設における看看連携の実践の成果を確認した。                  ・法人内で地域連携室の看護師と緩和ケアの看護師が、訪問看護に出向している。                  ・地域包括ケア病棟の看護師が、急性期病棟で研修している。                  ・病棟の看護師が、退院支援で実習している。                  ・院内完結型（一般病棟、医療療養型病棟、介護医療院、サ高住、訪問看護等）であるため、看看連携に目が向いていない。                  ・支部会員が看看連携会議があることを知らない。</p> <p>3. 在宅における看護提供体制の強化推進のために、離職を希望する看護職についての地域循環型の再就職支援体制を病院、在宅間の連携などについて検討していく。                  ・訪問看護総合支援センター主催の退院支援に関する研修会企画に、医療機関の現状報告と提案を行った。引き続き、協働していく。                  ・訪問看護総合支援センター主催の看護小規模多機能型居宅介護啓発研修において、退院支援事例のグループワーク支援等を行った。</p>

<p>■活動の評価</p>	<p>病院の機能分化が進み、地域包括ケアシステム体制の構築や地域共生社会づくりを目指す社会の中で、地域で安心して暮らせるためには「看看連携」を組織的に効果的に進める必要がある。各支部における会議等、組織的に連携が実施されている部分もあるが、先駆的な事例について周知されていない部分があり、実践報告会を開催した。実践報告会のグループワークでは、支部ごとに看看連携の課題や解決策を検討し、看看連携に対する思いや看護について語り合うことができた。</p>
<p>■今後の課題</p>	<p>現在取り組んでいる地域包括ケア推進に向けての各支部での取り組みを深めていく。支部または地域の医療福祉の実情に即した規模での看看連携を行い、実践の成果を明らかにしていく。地域の成功事例を定期的に共有する。併せて患者を生活者としてとらえることや患者の生活をイメージして看護するための看看連携について、周知方法を検討していく。所属施設以外の施設の情報不足があるため、診療所を含めた様々な場所で働く看護職との連携のための情報収集に努める。プラチナナースの活用も検討する。</p>